

# 宮城・市川橋遺跡 いちかわばし

1 所在地 一 宮城県多賀城市浮島字高平、市川字鴻ノ池

二 宮城県多賀城市浮島字高平

2 調査期間 一 一九九八年(平10)四月～六月、一二月  
二 一九九八年六月～一二月

3 発掘機関 多賀城市埋蔵文化財調査センター

4 調査担当者 石川俊英・千葉孝弥・石本 敬・鈴木孝行・  
武田健市・高橋圭蔵・菊地 豊・三浦幸子・  
車田 敦・堀口和代・佐藤恵子・文屋 亮

5 遺跡の種類 地方都市跡

6 遺跡の年代 奈良・平  
安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構  
の概要

市川橋遺跡は、特別史跡  
多賀城跡の西方から南面一  
帯に位置している。多賀城  
跡の西側を南流する砂押川  
東岸の標高二～三mの微高



(仙台・塩竈)

地上に立地し、面積約七〇万㎡にもおよぶ遺跡である。本遺跡の本格的な調査は一九七五年から開始され、奈良・平安時代の遺構が広範囲に分布していることが明らかとなっている。特に隣接する山王遺跡とともに多賀城南面に施工された方格地割りの存在が明らかとなったことは、古代地方都市のあり方を解明する上で貴重な成果となっている。

## 一 第二四次調査

本調査は、大規模開発に伴う事前の総合確認調査として、多賀城跡南面に位置する浮島字高平、市川字鴻ノ池地区を対象に実施した。発見した遺構には、多賀城に向かって延びる幅二三mの南北大路やそれと直交する幅二二mの東西大路、これらを基準として施工された幅五～六mの道路、掘立柱建物、竪穴住居、河川などがある。遺物には、「安」「真」「神」「缶正」「厳」などと記した墨書・刻書土器も出土している。

本簡は、南北大路と東西大路の交差点から約一四〇m東側を南北方向に区画する溝SD九四六から出土した。SD九四六は幅三・三m以上の溝であり、周辺の調査成果から長さは一六〇m以上にわたっていることが判明している。出土した遺物より九世紀中頃を中心とした年代が考えられる。

## 二 第二五次調査

本調査は、土地区画整理に伴う事前調査として実施した。墨書土

器が多く出土しており、「政所」「酒杯」「磯上」「大」「刀」など  
とある。また、木製皿の底部に「宅」と記した墨書木器も出土して  
いる。本木簡は南北大路と東西大路の交差点から東に約一六〇mの  
地点の井戸SE九四八から出土した。SE九四八は直径約二・四m  
の素掘りの井戸で、木簡は埋土二層から出土している。年代は、出  
土した遺物から九世紀初頭頃と考えられる。なお、溝SD九四六か  
ら木簡が一点出土しているが、墨の残りが悪く内容は不明である。

# 8 木簡の釈文・内容

## 一 第二四次調査

(1) ・「○」

・「○」天長六年二月六日  
□□隊長□部□人

(127)×22×6 039

付札木簡である。表面は墨痕が薄く判読不可能である。上端は表  
面および裏面に切り込みを入れ折っているのみである。上端部には、  
径二・五mmほどの小孔が確認できる。

## 二 第二五次調査

(1) ・「く五斗黒春」

・「く七月廿八日」

115×24×10 032

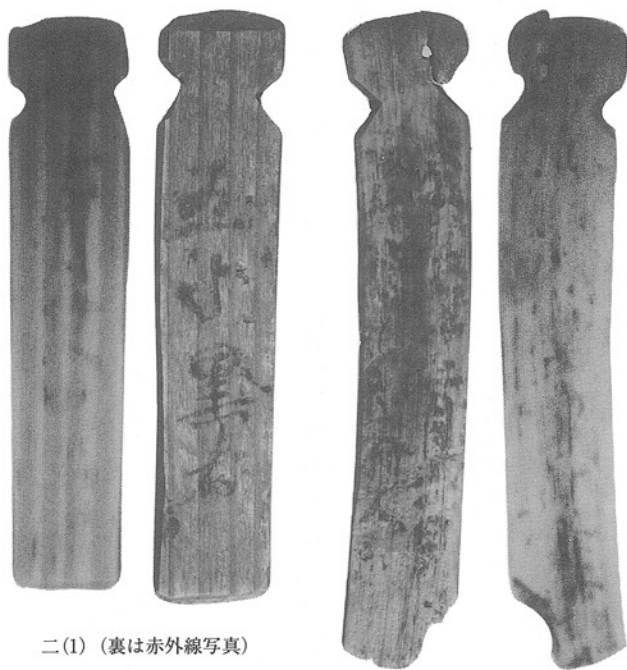
黒春(玄米)の付札である。上端・下端ともに、表面および裏面

から刃を入れて折っている。

## 9 関係文献

多賀城市教育委員会『多賀城市文化財調査報告書第五集 市川  
橋遺跡』(一九九九年)

同『多賀城市文化財調査報告書第五七集 市川橋遺跡』(一九九  
九年) (武田健市)



一(1) (表は赤外線写真)

二(1) (裏は赤外線写真)